

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】令和1年9月26日(2019.9.26)

【公表番号】特表2019-501243(P2019-501243A)

【公表日】平成31年1月17日(2019.1.17)

【年通号数】公開・登録公報2019-002

【出願番号】特願2018-526054(P2018-526054)

【国際特許分類】

C 08 F 283/06 (2006.01)

C 08 F 2/44 (2006.01)

【F I】

C 08 F 283/06

C 08 F 2/44

A

【誤訳訂正書】

【提出日】令和1年8月15日(2019.8.15)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0053

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0053】

実施例1の合成：mPEG2,000中で生成された、半分が充填され半分が供給される9重量%の連鎖転移剤(CTA)を有するpMMA高分子

窒素掃引下にある5Lの反応ケトルへ、以下の表1に示されるリン酸化物含有化合物、及び2,000の分子量を有する示されたメチルポリエチレングリコール(mPEG2000)全部を充填し、これを97へ加熱しながら融解させておき、融解したとき、攪拌を開始し、次に、示されたリン酸化物含有化合物である次亜リン酸ナトリウム(NaHP)を充填した。次に、示された開始剤である過硫酸ナトリウム(NaPS)及びメタクリル酸(MAA)単量体をこのケトルへ120分間かけて供給し、ケトル内容物の表面上にこの単量体を供給した。同時に、並行して、示されたリン酸化物含有化合物(NaHP)を95分間という時間をかけて供給した。反応温度は、供給の間に97で維持した。供給終了時に、温度を97でさらに20分間保持した。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0066

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0066】

【表6】

表6：スランプ検査結果

例	直径
*PCEなし	10.3
3	12.4
*4	10.4

\*は対照を示す。

( 態 様 )

( 態 様 1 )

ポリカルボキシラートまたはポリカルボキサミドのエーテルを生成するための方法であつて、

水中での反応混合物（湿式反応混合物）の総重量に基づく 15 ~ 60 重量 % の 1 つ以上のエチレン不飽和酸またはその塩と、前記湿式反応混合物の総重量に基づく 37 ~ 76 . 9 9 重量 % の 1 つ以上のポリエーテルポリオール、アルキルポリエーテルポリオール、ポリエーテルアミンまたはアルキルポリエーテルアミンと、を含む前記反応混合物の 80 ~ 99 重量 % の固体量を有する前記湿式反応混合物を、( i ) 前記湿式反応混合物の総重量に基づく 0 . 01 ~ 1 重量 % の 1 つ以上の水溶性ラジカル開始剤または酸化還元対の存在下で、かつ( ii ) 次亜リン酸ナトリウムなどの次亜リン酸塩、または有機亜リン酸塩から選択される化合物を含有する、前記湿式反応混合物の総重量に基づく 2 ~ 22 重量 % の 1 つ以上のリン酸化物の存在下で、80 ~ 100 の温度へ 5 ~ 300 分間の第 1 の時間加熱した後、連続して、150 ~ 250 の第 2 の温度へ 30 ~ 600 分間の第 2 の時間加熱して、くし型高分子を形成することを含む、方法。

( 態様 2 )

前記湿式反応混合物の前記固体量が、90 ~ 99 重量 % に及ぶ、態様 1 に記載の方法。

( 態様 3 )

前記第 2 の時間における前記加熱することが、10 ~ 300 mm / Hg の部分真空の下で実施される、態様 1 に記載の方法。

( 態様 4 )

前記 1 つ以上のエチレン不飽和酸が、メタクリル酸、その塩、またはメタクリル酸とアクリル酸との混合物から選択される、態様 1 に記載の方法。

( 態様 5 )

ジオールまたは二官能アミンである 1 つ以上のポリエーテルポリオール、アルキルポリエーテルポリオール、ポリエーテルアミンまたはアルキルポリエーテルアミンの前記の総量が、前記 1 つ以上のポリエーテルポリオール、アルキルポリエーテルポリオール、ポリエーテルアミンまたはアルキルポリエーテルアミンの総重量に基づく 3 重量 % 以下である、態様 1 に記載の方法。

( 態様 6 )

前記 1 つ以上のポリエーテルポリオール、アルキルポリエーテルポリオール、ポリエーテルアミンまたはアルキルポリエーテルアミンの重量平均分子量が、200 ~ 5000 に及ぶ、態様 1 に記載の方法。

( 態様 7 )

前記総湿式反応混合物におけるエチレン不飽和酸のカルボキシル基またはカルボキシラート基のモル数とアミン基またはヒドロキシル基のモル数との比が、9 : 1 ~ 1 : 1 に及ぶ、態様 1 に記載の方法。

( 態様 8 )

前記くし型高分子が、6 , 000 ~ 160 , 000 の重量平均分子量を有する、態様 1 に記載の方法。

( 態様 9 )

前記湿式反応混合物が、添加された有機溶媒を含まない、態様 1 に記載の方法。

( 態様 10 )

加熱前に、前記湿式反応混合物または容器の中へ、前記総リン酸化物含有化合物の全部を充填することを含む、態様 1 に記載の方法。

**【誤訳訂正 3】**

**【訂正対象書類名】**特許請求の範囲

**【訂正対象項目名】**全文

**【訂正方法】**変更

**【訂正の内容】**

**【特許請求の範囲】**

**【請求項 1】**

ポリカルボキシラートまたはポリカルボキサミドのエーテルを生成するための方法であつて、

水中での反応混合物（湿式反応混合物）の総重量に基づく15～60重量%の1つ以上のエチレン不飽和酸またはその塩と、前記湿式反応混合物の総重量に基づく37～76.99重量%の1つ以上のポリエーテルポリオール、アルキルポリエーテルポリオール、ポリエーテルアミンまたはアルキルポリエーテルアミンと、を含む前記反応混合物の80～99重量%の固体量を有する前記湿式反応混合物を、(i)前記湿式反応混合物の総重量に基づく0.01～1重量%の1つ以上の水溶性ラジカル開始剤または酸化還元対の存在下で、かつ(ii)次亜リン酸ナトリウムなどの次亜リン酸塩、または有機亜リン酸塩から選択される化合物を含有する、前記湿式反応混合物の総重量に基づく2～22重量%の1つ以上のリン酸化物の存在下で、80～100の温度へ5～300分間の第1の時間加熱した後、連続して、150～250の第2の温度へ30～600分間の第2の時間加熱して、くし型高分子を形成することを含み、

ジオールまたは二官能アミンである1つ以上のポリエーテルポリオール、アルキルポリエーテルポリオール、ポリエーテルアミンまたはアルキルポリエーテルアミンの総量が、前記1つ以上のポリエーテルポリオール、アルキルポリエーテルポリオール、ポリエーテルアミンまたはアルキルポリエーテルアミンの総重量に基づいて、3重量%以下である、方法。

#### 【請求項2】

前記湿式反応混合物の前記固体量が、90～99重量%に及ぶ、請求項1に記載の方法。

#### 【請求項3】

前記第2の時間における前記加熱することが、10～300mm/Hgの部分真空の下で実施される、請求項1に記載の方法。

#### 【請求項4】

前記1つ以上のエチレン不飽和酸が、メタクリル酸、その塩、またはメタクリル酸とアクリル酸との混合物から選択される、請求項1に記載の方法。

#### 【請求項5】

前記1つ以上のポリエーテルポリオール、アルキルポリエーテルポリオール、ポリエーテルアミンまたはアルキルポリエーテルアミンの重量平均分子量が、200～5000に及ぶ、請求項1に記載の方法。

#### 【請求項6】

総湿式反応混合物におけるエチレン不飽和酸のカルボキシル基またはカルボキシラート基のモル数とアミン基またはヒドロキシル基のモル数との比が、9：1～1：1に及ぶ、請求項1に記載の方法。

#### 【請求項7】

前記くし型高分子が、6,000～160,000の重量平均分子量を有する、請求項1に記載の方法。

#### 【請求項8】

湿式反応混合物が、添加された有機溶媒を含まない、請求項1に記載の方法。

#### 【請求項9】

加熱前に、前記湿式反応混合物または容器の中へ、前記総リン酸化物含有化合物の全部を充填することを含む、請求項1に記載の方法。